



昭和から平成の頃に

元教職員 福田 貴 充

昭和52～53年度の2年間(臨時教員)、昭和59～平成3年度の8年間、そして平成7～8年度の2年間、合計12年間、我が母校、坂野中学校で勤務させていただきました。その中でも2回目の8年間勤務が、私にとって特に印象的であったように思います。

私自身、体験活動の重要性に気づき始めた頃だったと思うのですが、学校教育では取り扱いが困難と思われる「体験活動」に取り組んでいたことを思い出します。

遠足として、学校を出発して那賀川町の手元まで、地図を見ながらのオリエンテーリング。体験活動の一環として、砂浜で飯盒炊飯。風の吹く中であっても、ライターでなく、あえてマッチを使うという条件を付け加えました(もちろん教員もマッチで率先垂範?)。火起こしをして湯を沸かす過程で、知恵を働かせながら何かを学んでくれたものと確信しています。

また当時の成川嘉則校長が、県教委での勤務を経て学校現場に帰られた時、山川少年自然の家の宿泊訓練に沢登り体験を提案・採用されたのも、この頃だったと思います。小松島市という海辺に育った生徒たちにとって、とても貴重な経験になったに違いありません。

そして修学旅行では、長崎市にて自由行動を企画。長崎駅を出発して、大浦天主堂の入口にある「〇〇物産館」(何故か名前までよく覚えている)がゴール。当時、長崎海星高校が高校野球で活躍していたため、多くの生徒が見学に訪れたようでした。ともあれ地図・パンフレット等を調べて、班内で協力し合って目的地を目指すというものでした。しかしそこは「田舎者」、ゴール地点で待機していて気が付くと、集合時刻の1～2時間も前に、すでに多くの生徒たちが集まっており、聞いてみると「遅刻しないように早めに来ました」と。聞こえはいいのですが、実は計画していた見学地をカットまでして、早々とゴールに来ていた班もあったようで、……。坂中生の純朴な面を垣間見る思いで、つい苦笑いしたのを覚えています。

坂野中学校がいよいよ閉校の時期を迎え、2016年度より「小松島南中学校」として再出発するに当たり、長い歴史の中で積み重ねられてきた、こうした教育活動のすべてが集大成され、更なる発展につながっていくよう、心から祈っています。